

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 熊野町立熊野第三小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校, 各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒731-4227
広島県 安芸郡 熊野町 貴船 15-1

E-mail kuma03es@piano.ocn.ne.jp
Website http://kuma0316.ec-net.jp/

幼児児童生徒数 男子 120 名 女子 150 名 合計 270 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点~平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

当校は、「つよく かしこく やさしい子」を学校理念として、ESDを「地域の文化財等を継承する学習」と捉え、ESDの実践を通して、「伝統を守り、受け継いでいくことの大切さを考える力」「受け継ぐために何ができる考え実践できる力」の育成を目標とした。

具体的には、中学年の熊野筆、5年生の米作りを柱に、①熊野筆に係わる学習、②米作りに係わる学習を行った。

① 熊野筆に係わる活動

3年生と4年生の総合的な学習の時間に位置づけて行なっている。3年生では、「熊野の昔にタイムスリップ」と単元を設定し、「古くから地域で行なわれている祭りについて調べ、地域への愛着を深めることができる。」を目標として取り組んだ。学習の中で、熊野筆をはじめ、熊野町に古くからある文化財や行事を調べ、まとめた。また、その学習の終わりには、児童がPRするためのキャッチフレーズを考え、子ども新聞に投稿した。4年生では、「熊野筆のひみつをさぐろう」の単元を設定し、熊野筆のこと伝統工芸士さんのことを調べた。また、伝統工芸士にゲストティーチャーとして来ていただき、熊野筆作り体験をした。さらに3、4年は運動会で、筆踊りを行なうために地域の女性会の方に来ていただき、筆踊りの指導を受け、運動会で披露することもできた。このような学習を通して、児童は、熊野筆や熊野町の文化に愛着を持つとともに、それらの文化を維持、継承している方々の努力に気付くとともに、自分たちも実践をすることでそれらの文化を引き継いでいこうとする心が育ったと言える。まさに本校の理念の一つ「やさしい子」を育てることにつながっていると見える。



筆踊りの指導



伝統工芸士との筆作り体験

※チェック事項 1-1, 2-1 に対応

② 米作りに係わる学習

5年生は総合的な学習の時間に「田んぼのひみつ」として単元を設定し、地域の方と米作りを通して米のことや農業のこと、田んぼ周辺の自然のことなどを学習してきた。定期的に田んぼへ行き、米作りをすることで米作りに係わって農家の人々の努力や工夫、苦勞を知るとともに、米に対する愛着を高めることができた。また、田んぼに実際に入り、観察や自然とのふれあいにより、田んぼや米に対する新たな発見をしたり、環境を守る取組を知ったりすることができたとともに、環境を守る大切さを実感することができた。そして、学習の終わりにはお世話になった地域の方を学校に招き、「おにぎりパーティー」を開き、感謝の気持ちを伝えるとともに地域の方とのつながりを強くすることができた。厳しい自然環境の中でも米作りを協力して行なうこと、工夫や努力を知ること、ともに作業をしたり感謝の気持ちを伝えたりすることは、本校の理念「つよく かしこく やさしい子」を育成することにつながったといえる。



地域の方との田植え体験



田んぼの観察



地域の方との稲刈り体験



おにぎりパーティー

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動と年間の学習指導計画を照らし合わせながら各教科、総合的な学習の時間、道徳の時間等で関連のある学習を結びつけながら活動を実施した。

また、指導内容については、地域の特色や地域のゲストティーチャーとも照らし合わせながら、指導内容を定めた。さらに、指導方法の工夫改善については、ただ調べて終わるのではなく、体験をしたり直接話を聞いたり、自ら課題を見つけて学習を進めたりできるように単元全体を通して計画を立てた。そして、振り返りを充実させることで次への学習の見通しをもてるようにした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体で指導計画を共有できるように、違う学年の指導計画も見られるようになってきている。また、継続して行なっている取組については、記録や指導の際の教具などを引き継ぎ、継続していくようにしている。

ゲストティーチャーとしての人材の確保や新規で増やしていけるように地域とのネットワーク作りに努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の評価として、外部に対しては学校関係者評価委員会を開催し、教育活動について報告をして助言指導を受けている。特に、ゲストティーチャーの招聘回数の調査や保護者アンケートによる地域と学校との連携について調べ、報告をしている。

内部については、活動後の教職員の振り返りや次年度への引き継ぎを行なうことで質を向上している。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

特にしていない。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

筆作り体験では、熊野町の教育委員会とも連携して伝統工芸士を招聘した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特にこれまではそのような交流をしていない。将来的な交流として、熊野町と同じような地域の伝統を守り引き継いでいる他の地域と交流をして、自分たちの町との似ているところ、違うところを比較したり、報告し合ったりしていきたい。さらに世界の熊野筆ということで、世界にPRできる取組も考えてみたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

熊野町のよさを取り上げて学習をしているので，地域の方との結びつきが強くなった。また，児童にとっても自分たちが住んでいる地域のことをよく分かり，自分たちの町への愛着も深めることができた。さらに教員自体も熊野町についてよく分かるようになってきた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

これまでの取組を引き継ぐとともに新しい内容も取り入れていきたい。例えば，熊野町にある茅葺き屋根の家への見学などを通して，3年生の熊野についての学習を深めていきたい。
また，筆踊りをさらに広めていくために踊る場面も運動会だけで終えるのではなく，学習発表会などでも披露していきたい。